

## 平成24年度第9回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会の概要

- 日 時： 平成25年2月25日（月） 13時30分～15時00分
- 場 所： 京都市立病院 4F会議室
- 出席者： 理事長 内藤 和世  
理 事 森本 泰介, 新谷 弘幸, 位高 光司, 山本 壯太, 小西 哲郎,  
木村 晴恵  
監 事 長谷川 佐喜男, 中島 俊則

### 1 開会

### 2 議事

- (1) 地方独立行政法人京都市立病院機構病院等管理規程の改正について  
原案どおり了承された。

#### ア 京都市立病院新館における個室料の設定

(主な質疑内容)

- ・ 従来の料金設定を踏襲し、個室料は1,000円刻みで設定している。設置費用の回収については、償還期間を7～8年程度と見込んでいるが、値段を上げると、利用率が低下し、回復に少々時間が掛かり、償還期間も長くなる。

#### イ 京都市立病院健診センターにおけるPET-CT健診の実施

(主な質疑内容)

- ・ 人間ドックとオプションコースの組合せと、総合コースとの違いは、脳MRI/MRAと骨盤部MRIが、通常の間ドック健診に含まれていない。総合コースの方が充実しており、健診学会からは、2年に1回程度受診すると良いと言われている。

### 3 報告等

- (1) 経営状況月次（1月分）報告、第3四半期報告

(主な質疑内容)

- ・ 京北病院の良い実績は、地域包括ケアの取組について、地元の方から支持をしてもらえるようになった結果だと思っている。
- ・ 市立病院の外来診療単価が京北病院より高いのは、市立病院は、地域連携の取組により、重症度の高い患者を受け入れており、検査や薬が必要な人が多いためである。一方、京北病院は、慢性期の患者が多く、投薬のみの人も多い。ただ、市立病院は、全国の都市型急性期病院の中では診療単価は低い方である。
- ・ 市立病院の1日当たりの収益は3,200～3,300万円程度である。2月は営業日数が少ないが、病床利用率が上がっており、1日分程度の減収で済む予定である。3月前半は、引越しの影響で病床利用率が下がるため、減収が心配だが、前年度以上の収益は得られると思っている。移転に当たっては、病床利用率の低下をいかに短期間で済ませるかが重要であり、収益を確保するためのコントロールが必要である。
- ・ 京北病院の今後の見込みは、今年の1月末から2月はインフルエンザの患者が多く、介護老人保健施設の新規入所を一時的に制限したこともあり、少し落ち込む予定である。

## (2) 平成25年度京都市立病院機構予算骨子案について

(主な質疑内容)

- ・ 運営費交付金は市民からの税金が充当されている。市立病院は、元は伝染病病院であったことから、公的な病院であり、公に奉仕し、市民に喜んでもらえる病院になっていく必要がある。このような医療が政策医療であり、公益性に繋げるため、透明性を持って説明責任を果たし、一定の政策医療に見合った部分は受け入れていくべきであると考えている。ホームページでも、運営費交付金の内訳などその内容について公表している。
- ・ 市立病院は第二種感染症指定医療機関であり、新館では二類のみならず、一類感染症の一部にも対応できる。万一に備えて、市立病院だからこそ、一定の投資を行った。また、感染症に加え、災害、NICU等周産期の医療体制などの少子化への備えも行っている。

## 4 閉会